

【スペシャルインタビュー】

角野 文彦（びわこリハビリテーション専門職大学 学長）

びわこリハビリテーション専門職大学の角野学長は、これまでの豊富な公衆衛生医師としてのキャリアを通じて、地域医療の発展に多大な貢献をしてきました。

本インタビューでは、学長のこれまでの歩みや取り組み、専門職大学の特長と課題、そして未来の展望について伺いました。地域社会に根ざした教育と実践を通じて、次世代の医療人材育成に全力を注ぐ角野学長の熱意とビジョンに迫ります。



（ご略歴）

1986年 滋賀県彦根保健所勤務
滋賀医科大学附属病院小児科研究生
1992年 滋賀県今津保健所保健予防課長
1996年 国際協力事業団(JICA) 出向
「ケニア感染症研究対策プロジェクト」プロジェクトリーダー
2008年 滋賀県健康福祉部健康推進課長
2011年 滋賀県健康医療福祉部 技監
2012年 滋賀県健康医療福祉部 次長
2018年 滋賀県健康医療福祉部 理事
2024年 現職

◆角野学長のキャリアと公衆衛生における取り組み

本日はお忙しい中、インタビューに応じていただきありがとうございます。

2025年を目指した地域医療構想における回復期機能の拡充に加え、2040年ターゲットの新たな地域医療構想の下では高齢者救急や早期のリハビリテーションも必要とされる包括期機能として位置づけられ、リハ職の重要性や拡がり求められる中でその人材輩出を担うびわこリハビリテーション専門職大学の角野学長よりお話を伺わせていただきます。

どうぞよろしく願いいたします。

角野 こちらこそ、本日はよろしく願いいたします。

森 角野学長のご経歴についてお聞かせください。

私は1986年に滋賀医科大学を卒業し、すぐに滋賀県庁に入庁し初めの2年間は臨床医として経験を積みました。その後、公衆衛生医師として健康づくりや医療水準の底上げに取り組みました。

角野 特に滋賀県の平均寿命が男女ともに全国トップクラスになるように尽力してきました。

公衆衛生医師としての37年間の活動は非常に充実したものでした。

森 滋賀県の医療水準向上のために具体的にはどのような取り組みをされたのでしょうか。

県内の保健所や県庁で、健康づくりのプログラムや病院の拠点化、救急体制の整備などに

角野 取り組みました。例えば、脳卒中の治療においては、適切な病院に早急に運ぶ体制を整えることで、多くの患者が障害を最小限に抑えて回復することができました。

こういった取り組みにより、滋賀県の平均寿命が全国トップクラスに引き上げられたと自負しています。

◆びわこリハビリテーション専門職大学への転身

- 森 2024年の4月からびわこリハビリテーション専門職大学の学長として着任されたとのことですが、その経緯について教えてください。
- 角野 はい、公衆衛生医師としての経験を通じて、健康づくりや医療政策の重要性を実感しました。その中で、人材の育成が非常に重要であると感じており、特にセラピストの養成に関わることで、地域医療の発展に寄与できると考えました。そこで、専門職大学の学長として、次世代の医療人材を育てることに挑戦することに決めました。

◆専門職大学の意義と役割

- 森 専門職大学にはどのような理念や教育方針があるのでしょうか。
- 角野 専門職大学は、大学の研究と専門学校の実務教育の中間に位置する教育機関です。私たちは、高度な知識と実務的なスキルの両方を学生に身につけさせることを目指しています。具体的には、理論的な教育だけでなく、現場での実践を重視し、学生が即戦力として活躍できるような教育を行っています。また、少人数制のクラスで個別指導を徹底し、学生一人一人に合わせたサポートを提供しています。
- 森 大学では研究が中心ですが、専門職大学では実務経験が豊富な教員が多く在籍しており、理論と実践の両方をバランスよく学ぶことができます。例えば、学生たちは実践的な演習やインターンシップを通じて現場での経験を積むことができます。
- 角野 このように、専門職大学は即戦力となる人材を育てるための教育機関です。

◆びわこリハビリテーション専門職大学の特徴

- 森 びわこリハビリテーション専門職大学の独自の特徴や強みについて教えてください。
- 角野 当大学の大きな特徴は、地域との密接な関係を持ち、様々な地元のニーズに応じた活動を展開していることです。例えば、地元の東近江市や周辺の自治体での健康教室、学校の障害児クラスでのサポートなど、地域貢献活動が盛んです。また、学生と教員の距離が非常に近く、教員が現場での実務経験を多く持っているため、学生たちは実践的な教育を受けることができます。
- 森 地域貢献活動について具体的に教えてください。
- 角野 例えば、健康教室では地域住民の体力測定や健康相談を行い、生活習慣の改善をサポートしています。また、障害児クラスでは、ノンリフティングの指導や特別支援教育のサポートを行っています。
- 森 さらに、障害者スポーツの支援では、車椅子バスケットボールやハンドボールのトレーニングをサポートし、スポーツを通じたリハビリテーションの推進に努めています。
- 角野 これらの活動を通じて、地域社会に深く根ざした大学運営を実現しています。

◆地理的条件とその克服策

- 森 大学の課題について、特にどのような点が課題となっているのでしょうか。
- 角野 一つ大きな課題は、大学の地理的条件です。私たちの大学は地方に位置しており、周囲にあまり多くの施設がありません。このため、学生の生活環境が少し不便で、特に駅からのアクセスが難しい点が挙げられます。また、全体的な学生数も少なく、1年生から4年生までの学生総数が400名ほどであるため、学生同士の交流やアクティビティの場が限られてしまうことも課題です。
- 森 対策としてどのような取り組みがされているのでしょうか。
- 角野 地理的な不便さを克服するために、学生の生活支援を強化しています。学内には食堂やカフェテリアがあり、学生がリラックスできる空間を提供しています。特に食堂では、安価で栄養バランスの取れた食事を提供しており、学生たちに非常に好評です。また、学習支援センターを設置し、学業で苦戦している学生に対する個別指導を行っています。
- 森 このように、学業支援と生活支援を両立させることで、学生が充実した大学生活を送れるようにしています。

◆入学生の動向と退学理由

- 森 入学生の動向や退学理由についても詳しく教えてください。
最近では入学生数が減少傾向にあり、特に県外からの入学生が少なくなっています。
- 角野 これは地理的な条件が影響していると考えられます。また、退学する学生の多くは、学業の難しさについていけなくなった場合が多いです。
特に基礎科目である生理学や解剖学、内科学などは、ついていけなくなる学生が多く見られます。
- 森 学生へのサポートはどのようにされていますか。
学業で苦戦している学生には、個別指導やカウンセリングを提供しています。また、学習支援センターを
- 角野 設置し、学生が質問しやすい環境を整えています。さらに、学生同士の交流を促進するために、学内イベントやサークル活動を充実させています。こうした取り組みを通じて、学生が孤立せずに学業に取り組める環境を整えています。

◆キャリアサポートと将来の展望

- 森 卒業生のキャリアパスや、キャリアサポートについて教えてください。
卒業生は、病院やクリニック、介護施設などの医療機関での就職が多いですが、それだけに留まりません。スポーツトレーナーとしてスポーツチームに所属したり、企業の健康管理部門で働いたり、教育機関で非常勤講師として働くこともあります。また、一部の卒業生は自ら起業し、
- 角野 デイサービスや介護タクシーなどの事業を展開しています。キャリアサポートとしては、進路指導や就職相談を行うキャリアセンターを設置しています。学生一人一人に対して、希望するキャリアに合わせたサポートを提供し、卒業後の進路をしっかりとサポートしています。また、業界との連携を強化し、インターンシップや就職先の紹介なども行っています。

◆医療職を目指す若者へのメッセージ

- 森 それでは、現在の学生や今後医療職を目指そうとしている若い人たちへのメッセージをお願いします。
医療職は本当に素晴らしい職業であり、社会的意義も非常に大きいです。医師や看護師だけでなく、セラピストもまた非常に重要な役割を果たしています。セラピストは全世代を対象にその仕事ができ、病院だけでなく、スポーツや教育、職場など様々な場面で活躍することができます。
例えば、理学療法士はスポーツトレーナーとしても活動でき、スポーツ分野でも大いに貢献することができます。作業療法士は、生活支援や職場での動作支援など、日常生活のあらゆる場面でその力を発揮することができます。また、軽度認知症の対応や教育現場での障害児支援など、
- 角野 その活動範囲は非常に広いです。
セラピストの仕事は非常に幅広く、そしてやりがいのある仕事です。将来的には自分で事業を立ち上げることも可能ですし、福祉サービスや介護タクシーなど、自分の力で直接社会に貢献することもできます。こうした夢のある分野で、自分の力を発揮してみたいと思う方々には、ぜひセラピストを目指してほしいと思います。
そのためにも、もっともっとセラピストに対する認知度が高まって欲しいと思い、そうした取り組みにも力を入れていきたいと考えています。

◆未来の展望と目標

- 森 最後に、びわこリハビリテーション専門職大学の未来展望と目標について教えてください。
私たちの大学は、地域医療の発展に寄与する人材を育成することを目指しています。
今後も地域との連携を強化し、地域住民の健康づくりや障害者支援を積極的に行っていきます。
また、国際的にも評価される教育機関として成長することを目指し、海外の大学や医療機関との
- 角野 交流を進めていきたいと考えています。
最終的には、びわこリハビリテーション専門職大学の卒業生が国内外で広く活躍し、地域医療の発展に寄与することで、多くの人々の健康と幸福を実現することが私たちの目標です。今後もさらなる教育の充実と新たな挑戦を続けていきたいと思っています。

◆結びに

森

角野学長、本日は貴重なお話をありがとうございました。
びわこリハビリテーション専門職大学の魅力と将来の可能性について、改めて深く理解することができました。
これからも 地域と密接に連携し、次世代の医療職を育てる素晴らしい教育を続けてください。

角野

こちらこそ、ありがとうございました。私たちの大学が果たしてきた役割や、これからの挑戦についてお話しできて光栄です。今後も地域に根ざした教育と実践を重視し、優れた医療職人材を育成していきたいと思います。医療職を目指す若い人たちには、ぜひこの魅力的な分野で力を発揮してほしいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(聞き手)

森ヘルスケア・サポート株式会社
森 清司